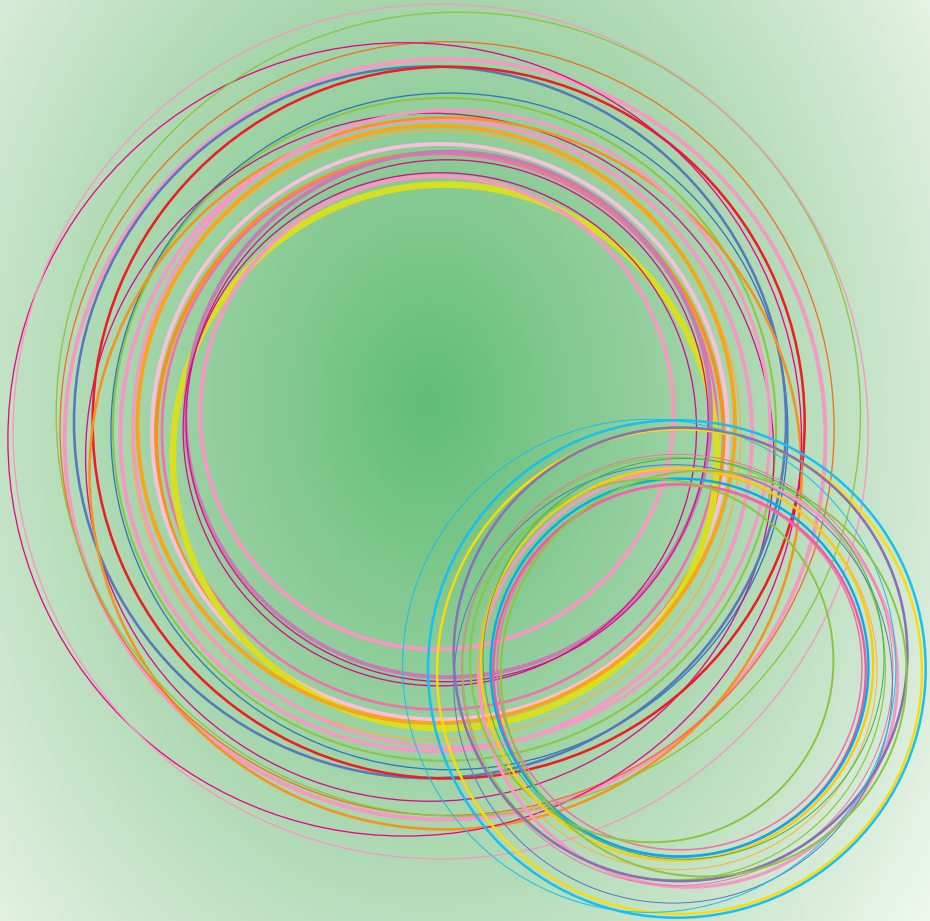


ダイバーシティ
社会推進
プロジェクト

女性政治家の エンパワメント研究会



主催:公益財団法人日本国際交流センター

会長:野田 聖子 衆議院議員

女性政治家のエンパワメント研究会 趣意書

2011年の国連総会において、「世界中のあらゆる地域における女性が政治的な分野から著しく疎外され続けているのは、差別的な法律や習慣、姿勢、また、ジェンダーに関する偏見、教育レベルの低さ、医療へのアクセス不足、および貧困が女性に与える影響が不均衡に多いことの結果なのである」と決議されました。

ジェンダー平等の実現に女性政治家のエンパワメントとリーダーシップが不可欠ですが、女性の政治への参画は世界的にも日本においても低いままです。

日本における女性国会議員の比率は先進国の中でも極めて低く、191ヵ国中160位です。《衆議院465名中、女性議員47名(10%)、参議院242名中50名(20.7%)、衆・参両院議員総数707名中、女性議員は97名(13.7%)》

女性議員の母数を増やしていくことは喫緊の課題ですが、同時に女性議員の政治家としての政策能力を高め、日本のみならず国際的な課題についても関心と理解を深め活躍することが期待されています。国際社会は今や、女性の発言力によりその国の国際的力を評価するようになってきました。女性政治家の国際社会での発言力を高めることは、女性議員を増やすのと等しく重要な課題です。

日本の女性議員の多くは身近な社会の課題について、女性の視点から政策を変え日本社会を変化させていく上で大きな役割を果たしています。あわせて国際的・地球的課題についても国際社会で積極的に発言することが期待されています。

インフォーマル研究会

会長野田聖子衆議院議員のもと、女性国会議員を中心とするインフォーマルな研究グループを組織します。2-3ヶ月に一度程度、内外の専門家等との情報・意見交換、勉強の場を提供し、同時に国際社会での議論の鍛錬の場となることを目指します。

海外政治家との対話ミッション

女性議員を中心に代表団を組織し、テーマを定めて米国やアジア諸国を訪問します。日本および諸外国の女性議員、関係者との対話を行い国際的ネットワークを広げ、国際的に通用する女性政治家としてのエンパワメントを目指し、さらに諸外国の女性議員と連帯して地球的課題に取り組む土壌を培うこともこのプロジェクトの目的とします。(2020年度実施)

提言とセミナー

一連の活動による成果を通じて、女性議員エンパワメントのための諸方策を広く一般に訴えと共に、議会、政府に提言を行います。

2019年1月

公益財団法人日本国際交流センター

理事長 大河原 昭夫

女性政治家エンパワメント研究会

会長

野田 聖子、衆議院議員(自由民主党)、衆議院予算委員会委員長



郵政大臣、内閣府特命担当大臣、自由民主党総務会長、総務大臣兼女性活躍担当 男女共同参画担当等を歴任。

メンバー(五十音順)

伊藤 孝江、参議院議員(公明党)



国光 あやの、衆議院議員(自由民主党)



伊藤 孝恵、参議院議員(国民民主党)



自見 はなこ、参議院議員(自由民主党)



岡本 あき子、衆議院議員(立憲民主党)



鈴木 貴子、衆議院議員(自由民主党)



加藤 鮎子、衆議院議員(自由民主党)



竹谷 とし子、参議院議員(公明党)



木村 弥生、衆議院議員(自由民主党)



田名部 匡代、参議院議員(国民民主党)



松川 るい、参議院議員(自由民主党)



吉川 沙織、参議院議員(立憲民主党)



研究会

第1回研究会 2019年3月18日(月) 17:00~18:00

- ・「SDGsと日本—誰も置き去りにしないために日本は何をするべきか」

講師: 高須 幸雄、国連事務総長特別顧問、「人間の安全保障」フォーラム前理事長、立命館大学客員教授

第2回研究会 5月20日(月) 17:00~18:00

- ・「国際安全保障・地政学的課題」

講師: 田中 均、(株)日本総研、国際戦略研究所理事長

第3回研究会 6月28日(金) 朝食会

- ・「国際社会における女性政治家のリーダーシップの課題」

講師: シルヴァーナ・コッホ=メーリン(Silvana Koch-Mehrin)、女性政治指導者グローバル・フォーラム創設者・会長

第4回研究会 9月9日(月) 17:00~18:00

- ・「国際移民・難民の課題に日本はいかに対応するか？」

講師: 石川 えり、認定NPO法人 難民支援協会代表理事

第5回研究会 12月実施予定

- ・「AIの発展と社会へのインパクト」

講師: 榎田 健児、スタンフォード大学アジア太平洋研究所日本研究プログラム、リサーチ・アソシエート; カリフォルニア大学バークレー校特任研究員

第6回研究会 2020年1月20日(月) 17:00~18:00

- ・「エネルギー、地球環境問題」

講師: 田中 伸男、笹川平和財団会長、前国際エネルギー機関事務局長

第7回研究会 3月16日(月) 17:00~18:00

- ・「国際金融・経済・通商問題」

講師: 武田 洋子、株式会社三菱総合研究所 政策・経済研究センター長・チーフエコノミスト

講師等略歴

第1回研究会 2019年3月18日（月）

「SDGsと日本—誰も置き去りにしないために日本は何をするべきか」

高須 幸雄、国連事務総長特別顧問、「人間の安全保障」フォーラム前理事長、立命館大学客員教授



東京大学法学部中退、1969年外務省に入省。1981年国際連合日本代表部参事官、1988年欧亜局西欧第二課長、1989年国際連合国連政策課長、1992年インドネシア公使、1993年国連事務次長補・行政管理局財務官、1997年国連日本代表部大使、2000年総合外交政策局国際社会協力部長、2001年在ウィーン国際機関日本政府代表部特命全権大使、2005年人間の安全保障担当、科学技術協力担当及び国連改革担当大使を歴任。また、ハーバード大学で客員フェローとして研究に当たる。2007年から2010年8月まで国際連合日本政府常駐代表(国連大使)を務める。2012年4月から、2017年5月まで、国連事務次長兼管理局長を務める。2010年12月より現在まで、人間の安全保障に関する国連事務総長特別顧問。

第2回研究会 5月20日（月）

「国際安全保障・地政学的課題」

田中 均、(株)日本総合研究所 国際戦略研究所理事長



1969年京都大学法学部卒業後、外務省入省。北米局北米二課長、アジア局北東アジア課長、在連合王国日本国大使館公使、総合外交政策局総務課長、在サンフランシスコ日本国総領事、経済局長、アジア大洋州局長(01-02)を経て2002年より政務担当外務審議官を務め、2005年8月退官。同年9月より(公財)日本国際交流センターシニア・フェロー、2010年10月に(株)日本総合研究所 国際戦略研究所理事長に就任。2006年4月から2018年3月まで東京大学公共政策大学院客員教授。オックスフォード大学より学士号・修士号(哲学・政治・経済)取得。著書に『国家と外交』(共著・講談社、2005年11月)、『外交の力』(日本経済新聞出版社、2009年1月)、『プロフェッショナルの交渉力』(講談社、2009年3月)、『日本外交の挑戦』(角川新書、2015年8月)等がある。

第3回研究会 6月28日（金）

「国際社会における女性政治家のリーダーシップの課題」

シルヴァーナ・コッホ＝メーリン (Silvana Koch-Mehrin)、女性政治指導者グローバル・フォーラム創設者・会長



2013年に創設された女性政治家の世界的ネットワークであるThe Women in Parliaments Global Forum (WIP) (女性政治指導者グローバル・フォーラム)の創設者、会長。各国にアンバサダーがおり、日本は上川陽子議員が務める。2004～2014年に欧州議会議員、2009～11年に欧州議会の副議長、2004～09年にヨーロッパ自由民主同盟の第一副議長、また、予算、貿易及び男女平等に関する各委員会の委員を務めた。ブリュッセルで企業広報のコンサルタント会社を経営していたが、その後、同社はより大きな米国の会社と合併。また、2つのドイツの地方テレビ局で冠番組のトークショーのホストを務めた後、今も国内外のメディアで活動。さらに、G20の関係機関であるW20の執行理事会のEU代表、世界経済フォーラムのヤング・グローバル・リーダーズ・ネットワークの卒業生など、数多くの肩書を持つ。

第4回研究会 9月9日 (月)

「国際移民・難民の課題に日本はいかに対応するか？」

石川 えり、認定NPO法人 難民支援協会 代表理事



1976年生まれ。上智大学卒。1994年のルワンダにおける内戦を機に難民問題への関心を深め、大学在学中、JAR立ち上げに参加。大学卒業後、企業勤務を経て2001年より難民支援協会(JAR)に入職。直後よりアフガニスタン難民への支援を担当、日本初の難民認定関連法改正に携わる。2008年1月より事務局長となり2度の産休をはさみながら活動。2014年12月に代表理事就任。第5回日中韓次世代リーダーズフォーラム、第2回日韓未来対話にそれぞれ市民セクターより参加。2018年フランス外務省PIPA(未来を担う人物招聘)プログラムに選出される。共著として、『支援者のための難民保護講座』(現代人文社)、『外国人法とローヤリング』(学陽書房)、『難民・強制移動研究のフロンティア』(現代人文社)ほか。上智大学非常勤講師。

5回研究会 12月実施予定

「AIの発展と社会へのインパクト」

櫛田 健児、スタンフォード大学アジア太平洋研究所日本研究プログラムリサーチ・アソシエート;カリフォルニア大学バークレー校特任研究員、Stanford Silicon Valley, New Japan Project (SV-NJ) プロジェクトリーダー



1978年生まれ、日本育ち。スタンフォード大学卒、経済学、東アジア研究専攻。カリフォルニア大学バークレー博士号修了。スタンフォード大学アジア太平洋研究所でポストドク修了後、2011年から現職。主な研究と活動のテーマは: 1) シリコンバレーのエコシステムとイノベーション、2) 日本人がどうすればグローバルに活躍できるのか 2) 情報通信(IT) イノベーション 3) 日本の政治経済システムの変貌など、学術論文や一般向け書籍を多数出版。日米のメディアではニューヨークタイムズ、ワシントンポスト、日本経済新聞、日経ビジネスなどにインタビューなどが掲載され、NHK、PBS NewsHour、NPR などに出演。キャノングローバル戦略研究所国際リサーチフェロー。

第6回研究会 2020年1月20日 (月)

「エネルギー、地球環境問題」

田中 伸男、笹川平和財団会長、前国際エネルギー機関事務局長



1973年、旧通商産業省(現経済産業省)入省。通商政策局総務課長、外務省在アメリカ合衆国日本大使館公使、経済協力開発機構(OECD)科学技術産業局長などを経て、2007年9月、欧州出身者以外で初めて国際エネルギー機関(IEA)の事務局長に就任。2011年8月に退任し、日本エネルギー経済研究所特別顧問、2013年からは帝人株式会社監査役を、2015年からは千代田化工建設株式会社取締役、公益財団法人笹川平和財団理事長を務め、現在同財団の会長。東京大学公共政策大学院 客員教授。著書に「『油断』への警鐘」(エネルギーフォーラム刊)。

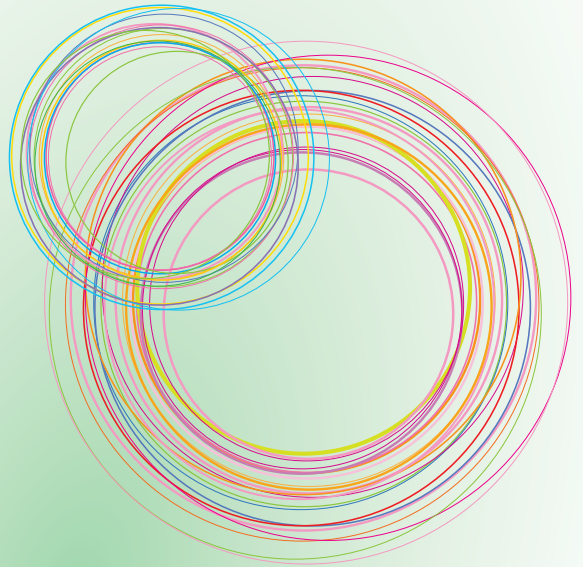
第7回研究会 3月16日 (月)

「国際金融・経済・通商問題」

武田 洋子、株式会社三菱総合研究所 政策・経済研究センター長・チーフエコノミスト



三菱総合研究所 政策・経済研究センター長・チーフエコノミスト。2008年ジョージタウン大学公共政策大学院修士課程修了。1994年日本銀行へ入行。2009年に三菱総合研究所へ入所。政策・経済研究センター主任研究員(シニアエコノミスト)、政策・経済研究センター副センター長を経て、2017年10月より現職。社会保障審議会年金部会委員(2011年～)、国の債務管理の在り方に関する懇談会メンバー(2013年～)、社会保障制度改革推進会議委員(2014年～)、財政制度等審議会・財政制度分科会委員(2015年～)、産業構造審議会総会委員(2017年～)、労働政策審議会労働政策基本部会委員(2017年～)、総合資源エネルギー調査会基本政策分科会委員(2017年～)、産業構造審議会2050経済社会構造部会委員(2018年～)、働き方改革フォローアップ会合構成員(2018年～)等に就任。



JCIE 日本国際交流センター
JAPAN CENTER FOR INTERNATIONAL EXCHANGE

日本国際交流センター(JCIE)は、国際関係や地球的課題、政治・経済・社会など幅広い政策課題をめぐり、日本と諸外国の相互理解と協力関係の促進を目的として1970年に設立された民間の事業型財団です。東京とニューヨークに拠点を置き、国際的な政策対話・共同研究や政策提言、議員交流等の国際交流プログラムなど、非営利・非政府としての立場から幅広い国際交流事業を実施しています。2016年より「ダイバーシティ社会推進プロジェクト」の一環として、女性政治家のエンパワメントに関わる事業を実施しています。

107-0052 東京都港区赤坂1-1-12、明産溜池ビル7階

Tel: 03-6277-7811

URL: <http://www.jcie.or.jp/japan/>